

保険業界の展望に関するレポート

「2023年の保険市場とテクノロジー」

ソラースコンサルティング

金融業界のDXをビジネスアドバイザリーとシステム導入の両輪で支援するソラースコンサルティングは、業界有識者との意見交換や経済統計等を取りまとめ、2023年における業界の展望をまとめたレポート「Navigating Through Stormy Times-Insurance markets and technology in 2023(嵐の時代を生き抜くために-2023年の保険市場とテクノロジー)」を公開した。以下、簡単な要約を紹介する。

インフレの再来に伴い、保険会社はここ数年で経験したことのない課題に直面している。日本のインフレ率は欧米よりは低いものの、40年ぶりのインフレの影響は多

大と言える。保険会社は、主に三つの要因によって、事業強化や業務プロセスの合理化を迫られている。一つ目は支払保険金の



日本事業統括マネージャーのナザック氏

023年に

は、より広

り事業コストや保険金支払いコストを圧迫している。2023年には、より広

高度なITキー。パビリティが鍵に

二つ目は自然災害や再保険コスト上昇による財務的圧力の増大が挙げられる。気候変動の影響を

鑑み、一時的に膨大な保険金請求が生じるような事象への備えが求められている。そして三つ目は、保険料収入の成長見通しの低下が考えられる。過去5年間で企業保

料は増加傾向にあったが、経済成長の鈍化や景気後退により、その先行きは暗い。

このような状況下でも継続的にサービス改善、コスト最適化、そして収益向上を実現するため、保険会社はテクノロジーの活用を通じ、高度なプロセス自動化、データ活用また提携企業や顧客との接点のデジタル化への道を模索している。

同レポートではさらに、ソラースの戦略的市場であるドイツ語圏、イギリス、北欧諸国、ポーランド、フランス、米国

として日本それぞれに市場動向と今後の動きについて簡単な要約を付記している。



レポートの表紙、原文(英語)は下記の公式サイトからダウンロード可
<https://sollers.eu/insights/predictions-2023-report/>

を図る動きが活発化するものと予測される。そのためには、基幹システムの見直しが必要となる。

欧州の保険会社は、短期的・中期的なビジネスバリューの向上に取り組み一方で、長期的な成功には強固な基盤が必要であることを認識している。米国の保険会社のIT支出の70%以上が基幹システム刷新や既存システムの保守・アップグレードに費やされているように、欧州でもクラウドソリューションへの移行も含めた基幹システム近代化が進むであろう。

欧州の金融機関は従来、クラウド移行へ比較的消極的な姿勢を保ってきたが、その安全性が認められるにつれ、導入率が高まりつつある。欧州保険会社の約60%が、中核的なビジネスプロセス

にクラウドベースのシステムを利用することになると見込まれる。また、23年は、欧州域内のデータ活用推進の動きにも進展が見られるだろう。EIOPA(欧州保険・企業年金監督局)のオープン保険API構想に始まり、各国で利用可能な一貫性のあるデータの充実と活用に向けたイニシアティブが推進されている。